



神奈川県環境学習リーダー会 会報 No. 46

2005年
8月9日

役員会報告 (事務局長 大森 勝)

8月役員会(8月9日)

1. 付議事項

平成18年度「親子で楽しむ環境展」実行委員長人選については後日決定する。

「エコタウンかながわ2005」(10/15,16); 出展方針と内容について担当から「県下地域毎の各部門データをパネル化」、及び「工作教室」の提案がありました。

「横浜カーフリーデー2005」(9/23); 事務局長が実行委員会に参加しその動向を見て参加の可否を決めたいとの意見で了承された。

第2回地域交流会(10/1、藤沢市); 地域活動サポート部担当で開催。大気環境部会が活動報告を行う。内容は会員にメール、郵便で公示する。

9月度地域懇談会; 小田原市尊徳記念館で9月度役員会後に開催する。

平成17年度4~6月期会計報告は会計担当から説明がありました。

- a) 特別事業の受託金処理の統一について; 会計担当から厳しい情勢下であり、及び個人受託事業の会計処理を従来の当会受託事業方式へ統一する提案があり、「子ども環境体験教室」経費も今年度は15年度方式とし、当会からの負担を無くすることで経費削減を図る。

b) 会計事務取扱について; 経費の支払いについての手続き要領や、経費削減についての考え方の提案。

2. 報告事項

県土整備補助金; 会計担当から趣旨および申請方法の説明があった。

9月役員会(9月12日)

1. 確認事項

8月末会員数: 正会員159名、賛助会員7名、特別会員2 計168名

2. 付議事項

第12回市民活動報告会を、実行委員長を柳川副代表とし平成18年2月19日、県民サポートセンターにて開催。実行委員及び発表は当会から2テーマを公募することを決定した。

「エコタウンかながわ2005」担当役員を決定。ポスター展示及び工作イベントを行う。9月末に企画を決定する。

かながわボランティア活動推進基金 21<協同事業負担金>に「子ども環境体験教室」を軸に企画書を作成する。

「横浜カーフリーデー2005」(9/23、25)に大気環境部会が「市中心部の排ガスを調べてみよう」のテーマで参加する。

平成17年度「子ども環境体験教室」を終えて

神奈川県環境科学センター 田中慶次

夏の行事としてすっかり定着した「子ども環境体験教室」も4年目を迎え、大反響で終わることができました。昨年の192名を大きく上回る(各教室24名、5教室合計120名の定員に対して)273名の応募がありました。(28名まで受け入れ枠を増やし、さらに2教室を追加)最終的に160名の子どもが参加しました。

教室終了時に行ったアンケートでも、約9割の子どもが「とても楽しかった(63%)」、「楽しかった(25%)」と答えていました。また、9割以上の参加者が「環境のことについてわかったり考えたりするようになった(よくわかった57%、少しわかった

36%)」と答えています。

子ども達は、感想を次のように述べてくれました。(アンケートより抜粋)

《ツバメ・朝顔で環境チェック》7月21日(木)実施

・酸性雨、水道水、排気ガスについての性質がよく分かり、ツバメ・ジョロウグモの見分け方がものすごく簡単に分かりました。

《写真立てを作ろう》7月28日
(木)実施

・「写真立てを作ろう」に参加して今日作った。写真立てがダンボールからできた。紙だということを知って再生紙の意味が分かってとてもよかったと思う。



した。環境や木などの大切さを考えるようになりました。ありがとうございました。

《ソーラークッカーを作ろう》
7月31日(日)8月28日(日)
の2回実施

・今度からは、ごみの分別の仕方に気をつけようと思った。
・ペットボトルはこれで作られるんだな、そして太陽はこんな力があるんだなと感じた。

《節電コンセントを作ろう》
8月6日(土)20日(土)
の2回実施

・自分がよいと思ってやっていることは、本当は地球に悪いということがわかった。省エネがどんなに大切かわかってよかった。
・テレビなどで省エネって言っているのの意味がわからなかったけど、今日ここに来て、省エネをするのはどんなに大事かが分かりました。ありがとうございました。

《ケナフを使った自分だけのハガキを作ろう》8月23日(火)

・今日一日ケナフ～紙すきを教えてもらい大変勉強になりました。

また、今年も数多く(62名)の保護者が同伴され、以下のような感想がアンケートに寄せられました。

・環境に目を向けることによって、人にやさしくなれたり出来ることを子供たちにも学べたかと思えます。よい体験教室でした。

・とても勉強になりました。一人一人が考え、行動に移し、やさしい環境でありたいです。又、子供達にしっかり伝える必要があると思いました。

単に知識を教え込むというのではなく、感心したり感動したりしながら心に残る環境体験をすることこそが、新たな意欲や試みとなって継続されていくのだと思います。「子どもたちが観察や体験をすることを通して、楽しみながら環境について考える」というこの教室の趣旨は十分達成できたと感じました。

このように充実した教室とすることができたのは、ひとえにリーダー会の皆様が行っている日常的な環境保全活動はもとより、4年間継続している各教室担当者の熱意によるものだと思います。また、色々とお気遣い頂いた代表の安丸元一様、担当の柳川三郎様をはじめ、準備やリハーサルのために何度もセンターまで足を運んで頂いた各教室の担当者の皆様のご尽力に心より感謝致します。

平成17年子ども環境体験教室 応募者数・参加者数

	応募者数	受入数	欠席者数	参加者	保護者等
ツバメ・朝顔で環境チェック	24	24	3	21	8
写真立てを作ろう	41	28	3	25	6
ソーラークッカーを作ろう	73	28	6	22	12
ソーラークッカーを作ろう(追加)	-	28	0	28	11
節電コンセントを作ろう	81	28	2	26	11
節電コンセントを作ろう(追加)	-	21	3	18	6
ケナフを使った自分だけのハガキを作ろう	54	28	8	20	8
合計	273	185	25	160	-

・欠席者を除く最終的な参加者(小学4～6年生)は160名となった。(16年度 143名)

平成 17 年度「子ども環境体験教室」の状況について

担当 柳川 三郎

4 回目の平成 17 年度「子ども環境体験教室」は今までとおなじように、神奈川県環境科学センター主催のもとに、私たち K リーダー会が講師を担当して従前よりさらに成功を達成いたしました。

科学センターの優れた英知を結集してのご指導、また K リーダー会の講師を担当していただいた会員の皆様に心よりお礼を申し上げます。各教室において、子どもたちが目を輝かしての生きた教室は、私たちの志す「地球の未来のために」夢をつないでおります。各教室の終了時に努めて全体の雰囲気把握して、私の直感教室を開催して満足感一杯でした。1 つは、講師の皆様が最大限に集中しての教室は、充実感と疲労感に満ちて、教室をやり遂げたことの満足感でした、2 つ目は、科学センターでは、朝早くから万全の準備態勢をとってくださったことと、私たち K リーダー会との連携の強化に心がけてくださったことです、3 つ目は、子どもたちは、すぐにできる生徒と普通の生徒と遅れてできる生徒も、みんな一生懸命に取り組む出来ました、成果物を手にしての姿は晴れ晴れとしていたことです、最後に、付き添いの保護者が子どもたちと同じように熱心に一緒になって教室を盛り上げてくださったことです。

今年の「子ども環境体験教室」は 4 年目を迎えて県民の注目が大きく飛躍しました、それは、前年に比較して申込者が 20% と増加（応募者 273 名）したことです。夏休み期間中において、子どもたちへの教室は想像を超えて各団体が各地で開催をした中での実績だけに嬉しい限りです、これは、科学センターにおける事前の広報活動と足を使っての訪問活動によるところが最大の要因となっています、K リーダー会として感謝の気持ちは言葉以上で、本当に有難う御座います。

「子ども環境体験教室」は科学センターと K リーダー会が協働しての 2 事業の一環として、K リーダー会の 4 部会が全面的に取り組みを春から努力して開催が出来ることは、K リーダーとして誇れる事業です、共に苦勞をたたえましょう。

「子ども環境体験教室」は定員をはるかに超えて、応募者が多数のために、科学センターのご高配で 2 教室の追加が出来ました。1 教室は締め切りのギリギリに申し込みが増加しましたが、今年度は追加教室をいたしませんでしたが、合計で 7 教室を開催いたしました。

「ツバメ・アサガオで環境チェック」の内容は、自動車が増えたため、排気ガスが問題になっているの

で、排気ガスの性質を実験 アサガオで大気汚染を観察 ツバメ・タンポポ・ジョロウグモを科学センターの中の広場で自然らしさを調査しました。

「写真立てを作ろう」の内容は、紙管を寸法図により工作をして写真立てを手作りしました。

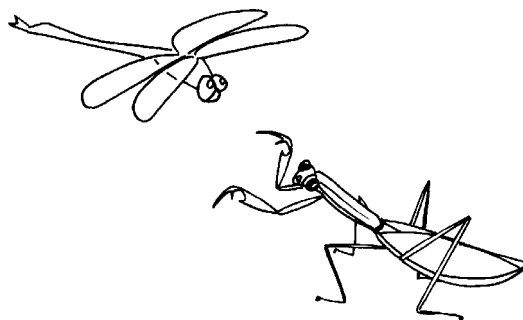
「ソーラークッカーを作ろう」は追加教室を含めて 2 回実施、内容は、ソーラークッカー製作の意義と製作について説明 簡易ソーラークッカー（あさがお）を図面により工作 太陽エネルギーでさつまいも・じゃがいも・プリン・ゆで卵をクッキング 生徒と共においしく試食 資源を大切に 4R を講師が実物を使って実演しました。

「節電コンセントを作ろう」は追加教室を含めて 2 回実施、内容は、NHK 放送の地球温暖化防止についてビデオを視聴 燃料電池自動車の試乗 小グループごとに、電気の実験：発電、測定、ソーラーエネルギー、風力、待機電力測定、照明の比較（白熱灯・蛍光灯）燃料電池 節電コンセントの製作 エコカルタ取り 省エネカレンダーのすすめ等を行いました。

「ケナフを使った自分だけのハガキを作ろう」の内容は、地球温暖化とケナフについてお話 科学センター内の畑でケナフ刈り取りとケナフ叩きとケナフ刻み ケナフをミキサーで攪拌 ケナフを圧力鍋で蒸解 映画、（紙は生きている）を視聴 蒸解したケナフを攪拌 ケナフ紙漉きを実施しました。

K リーダー会は環境保全・環境モニタリング・環境学習に役立つ為に常に学習を行い実践することの出来る県内でも数少ない団体組織としてアジェンダ 21 かながわの推進を目指しており、今回の「子ども環境体験教室」は一步の前進を達成しています。

特に、子どもたちが環境を守るための知識の高いことは明るい未来の展望が開けていると実感しております。これからは子供たちと共に、いかに地について行動して活動していくかが肝要に考えています。



かまくら環境フェスタ 2005 に出展協力

環境先進都市・鎌倉をめざして

世話役 猪股 満智子

20 歳から 40 歳までの青年が集う社団法人(JC) 鎌倉青年会議所が「明るい豊かな社会」をめざして鎌倉のまちづくりを推進してきて、昨年で創立 40 周年を迎えました。その記念と「今から始まる環境先進都市・鎌倉」へと進化していくきっかけにしようと、環境啓発事業イベントとして鎌倉市後援の下、8 月 27 日(土)鎌倉駅西口周辺 3 会場で開催されたものです。出展要請を受けて当会から大気環境、水環境、G O 3 廃棄物、グリーン部会の 4 部会とライフスタイルチェックグループから計 14 名が参加協力しました。

鎌倉市御成小体育館、多目的室を実験・体験のメイン会場に、校庭では燃料電池車をはじめ環境にやさしい車試乗体験ができ、駅西口時計台広場には太陽光発電による照明灯と時計、さらに「環境問題啓発看板」を設置し市に寄贈。また駅地下道でも全校児童 422 人による(ソーラーエネルギーのシンボルとして)ひまわりの絵画展示など盛り沢山。

残念ながら時期と暑さに勝てず

若さと年輪によるこういった企画力、宣伝はさすがで 2,000 人の来場を目標に練られたものでしたが、残念ながら夏休みのどん詰まりで厳しい残暑の日とあって出足はさっぱり。地域ミニコミ紙にはひいき目に 500 人の来場とありました。

急に振られた世話役の私は JC 実行委員長と当会との連絡取次ぎ役でしかありませんが、今後の参考にとという意味から、参加メンバーからの声も交えて少々感想を述べさせていただきます。

・ 他市に先駆け全庁横並びとなって「環境フェスタ」を活動団体と連携、海浜公園で大規模に開催できたのが 7 年前までの 3 回のみ。高齢化と緑地保全のための財政逼迫から市主催が不可能となっていたところを JC が～親子で実験・体験・解決しよう！地球温暖化～ときっかけづくり、新たな突破口となる

という勇断は大いに評価できる。当会環境展の影響があったことは確か。また、テーマを温暖化防止に絞ったことも来場者にはわかりやすかった。

・ 他の出展協力団体は県と市、東京ガス以外は地元有志企業 5 社。NPO 関係はかながわアジェンダ推進センター、かながわカウンセラー協議会湘南、湘南省エネネットワーク、自然エネルギー推進フォーラム、かまくら環境会議、ソーラークッカー考案者など。実は当会も会場スペースとテーマ内容の都合か当初から選抜され、会としての対応が即できぬまま日程に迫られたこともあって、全グループへ声かけができなかった事が残念。また主催者側の意図もあるのだろうが、地元市民団体への呼びかけがなかったことも少々寂しかった。

・ カウンセラー(協)のカチカチ(拍子木)「紙芝居始めるよー」とふれて回る演出はにくい。我々も見習いたい。逆に市環境担当者が当会の実験・体験コーナーに興味を持って応じてくれたことがうれしかった。

・ 終了間際、JC の先輩でもある市長を太陽光発電機器の寄贈式に招請したが、展示会場にも立ち寄ってほしかった。

地域環境の特性をふまえて

今回、鎌倉 JC の単発事業要請という思いがけない機会を得られ、勝手知らない地域と体育館内外での異業種展示交流で新発見もあったかと思えます。来場者の少ない時こそ、実験・体験・遊びから気づきへとコミュニケーションにより伝えていけるよいチャンスと思えます。当会が K E R C 等でやっていることが何処のまちでも受け入れられるとは限りません。会内部での基礎づくりの他に、地域活動にも参加してみることから地域特有の環境の違いや取り組み方にも気づけ、新たな活動目標、手法も生まれることでしょう。

生涯学習で“地球温暖化”の講師役

猪股満智子(鎌倉市)

神奈川県地球温暖化防止活動推進センター(かながわアジェンダ推進センター)より鎌倉市腰越学習センター生涯学習企画運営委員会依頼の講師派遣の要請が当会にあったのが丁度京都議定書発効になっ

た頃。役員会で検討の末、地元在住リーダー全員に講師役募集の呼びかけが行われ、結果下條泰生氏(6 期)と私の 2 人が請けることになり、9 月 6、13 日の両日を無事務めることができました。

3月、かながわエコBOXコーディネーター渋谷幹夫氏(10期)と安丸当時環境教育担当、そして講師予定者の計4人が腰越学習センターで企画運営委員と顔つなぎの打合せ。予めコーディネーターと運営委員の間で2日計4時間という日程と内容まで準備、合意がされていたため、2日間の役割分担と当日用資料の見繕い程度で、講師役としてはとても助かりました。本番までの約半年間、役割分担とお互いの手の内を承知していましたから、2人の中で具体的に細かい打合せをする必要はありませんでした。あとは当日用に自らのレジュメを用意するのみ、ただし2日間とも2人が居合わそうと運営委員にも約束しました。

前途多難？！

運営委員の手により7月下旬に月間生涯学習ガイド“萌”とチラシが、8月1日には広報“かまくら”に掲載され、15日〆切で往復はがきでの申込みと聞きました。最終的に応募者は7名(内、市外2名)。実は2年前、鎌倉生涯学習センターを会場に同じテーマで日経エコロジー社編集長を迎え開催された際も同様な結果でした。また本年6月に地元在住の解剖学者・養老孟司氏を迎えて市と環境審議会主催で「環境教育シンポ」を開催した際でも、「席は半数ほど、やはり市外の方が多かった」と市環境担当者に慰められた次第です。人集めは何処も難しい。

本番の1日目は私です。まず地球温暖化を企画された運営委員に敬意を表し、参加者に県の推進体制を理解していただくため2人が講師役となった経緯を説明して始めました。環境省製作DVD「知ろう学ぼう地球温暖化」を予定通り導入に使い、刷りた

での05年版環境省パンフと用意したレジュメ(国の新方針の概念図や最近の新聞記事等を抜粋)でやさしく訴えました。丁度あつては欲しくない台風やハリケーン、そして京都メカニズムによる排出権取引の成立など具体例がタイミングいいくらいに起こり、CO2取引への市民の誤解も取り除け、教材としては恵まれました。また市環境審議会から市内のCO2排出割合の資料も特別許可を得て綴じ込み、終わりに市民がどうあったらよいかと投げかけました。

一週明けて下條氏の番です。初日より参加者は2名減りました。私の導入部をうまく繋いで説明不足だったところを補足していただいた上で、エネルギー会から借用した省エネ機器を体感してもらいました。後詰めにグリーン購入まで引っ張りたいという思いがあつて、一寸ちょっと引き延ばし、結局終了時間30分超過となってしまいました。

焦らず、腐らず、めげずに

伝えたいことを完璧に最後まで伝えなければならぬか?いやそうではないと思います。押さえすぎは、大人の場合これでもか、これでもかと受け止められ、うっとうしがられるだけ。子どもの場合は飽きが先に来て好奇心、探究心へと結びつかないことのほうが多いものだと聞いています。

上手に時間短縮したいものです。

出席者が少ない中での望みは、地元ケーブルTVの取材が2日間、最初から最後まで付き合い、取材?学習していただいたことです。皆様もこれからいつ声が掛かるかしれません。環境全般について用意万端に励み、お願いいたします。

地球温暖化アジア太平洋セミナーの

プレ・イベントに当会参加

イベント担当 鎌田英光

このセミナーは、環境省、県、横浜市等が主催し、1991年第一回名古屋会議から今年で15回目の会議であり、パシフィコ横浜において9月11~15日間開催された。

アジア太平洋地域諸国および国際機関の専門家、代表者約50人が参加して、地球温暖化や気候変動の現状と同問題への取り組みについて各国間で情報交換と課題への取り組みの促進に役立てることを目的としたものである。

我々神奈川県環境学習リーダー会は、同会議のプレイベントとして、10日、11日、みなとみらい地区「クイーンズサークル」で行われた「市民参加・体

験型イベント」に出展参加し、10日(土)全日を任せられ、日頃の成果を披露しました。

当日は、パネル展示によるクイズラリーのほか、当会のエコ診断、グリーン部会、廃棄物GO3部会、エネルギー会のみなさんが、地球温暖化について舞台上でクイズショーや紙芝居、ミニカーレスの実演を行い、体験コーナーではエコライフ診断、節電タップ作り、ソーラークッカー作り、エコカルタ、環境パズルなどで一般市民と身近に勉強して、大勢の来場者から好評を得た。

次に、シボジウム「ストップ温暖化!今、我々に

できること～アジア・太平洋からの報告～」の後半部「パネルディスカッション」での内容を要約します。

「温暖化」の問題と言ってもなかなか捉えにくい問題であるが、我々は日ごろ地球から貴重なギフトを貰って生活をしており、私たちは、先ず自分は勿論みんな一緒になり「お返し」をして行かなければならないのではないかと。

消費者の立場で企業の環境報告書も生活者として評価していくことは温暖化に関係しており、製品の選択次第で大きな影響を及ぼすことを認識するべきであろう。

京都議定書では、目標値のほか排出権取引という新しい付加価値を生む取引が国際的に認知されたが、世の中が変わりつつあるという転換点を示したと言える。ただ、EUでは今年からスタートしたが、日本は2008年と取り組みが遅れていることが気になる。排出権取引で企業、政府は努力した結果を市場メカニズムを通じて活用していけば、メリットもあるが、未だ議論すべき点も多い。消費者としては、真面目に努力している者にとって権利を売買取引する

ことにより簡単に逃れられること、思惑で価格が変動することなど報われない気がするし、やはり真面目な努力がきちり評価されることが望ましいのではないかと。

また、ブータン国、ミクロネシア国からの出席者は、先進国への注文として、「われわれに甚大な影響をもたらすので、是非削減目標を達成してもらいたい」「すべての先進国はオプションを考えるべき時期であり、必要でないもの、不必要なものは作らないこと。経済への影響はあろうが、途上国も影響を受けるということを十分考えて欲しい」と悲痛な訴えをしていました。

そこで、市民としての行動は、先ず、ものを買う場合第一に「ものの必要性を十分考えて選ぶ」、次に「今持っているものを重視する」と言うことであり、また「やるためのインセンティブ」が起こる社会的スキーム作りやさらに重要なことは一人でも「声を上げていくこと」であり、そのことが制度を変えていくことになるとの結論であった。

『エコタウンかながわ2005』に参加するにあたって

廃棄物GO3部会 狩野 光子

昨年の暮れ、厚木で『みんなの環境展2005』を開催した時、はじめての事だったこともあってか、場所を借りる手続きや広報活動など、思いの外エネルギーを使うものだと痛感しました。その経験から『エコタウンかながわ2005』は、場所は行政が設定してくれ、来場者の心配もなくて良いということなので、自分達の展示内容に専念出来る魅力を感じ、はじめての参加に賛成しました。

環境問題は多岐にわたり深く関連していると分かっているのですが、ごみ問題に取り組んでいるだけでも壁があり、なかなか大気や水、自然など深く学習するまでに至りません。しかし幸い、私たちリーダー会は様々な分野を得意とする仲間の集まりなので、それぞれが住んでいる地区を、大気、エネルギー、ごみ、緑、水など、お互いの情報を提供しあい、パネルで纏めてみたら37市町村から集まって活動しているリーダー会らしい展示発表と啓発活動が出来るのでは無いかと企画提案しました。役員の皆さんも賛同してくださり、データやあるだけの情報は快く協力体制を取って下さいました。

情報を楽しみに待っている間、あまり覗いたこともない水や化学物質、エネルギーなどの情報を調べて見ました。なるほど6年まえの自分と比べると、知らないうちにごみだけでなく色々な環境の専門用語が理解出来るようになっていたと思いました。と言うことは、はじめて見る方は、その頃の自分と同じように関心はあるけどあまり内容が理解出来ないのかも知れません。

一般市民の方にも理解出来るように、端的に分かりやすい表現でパネルを作成するように努力したいと思います。

また、テントの中でも、エコタウンかながわだけの簡単にできる「単発工作イベント？」も企画しております。日頃ご無沙汰しがちな多くの仲間に参加して頂けましたら嬉しく思います。

- * 魔法の布 風呂敷を使ってみよう！
- * 竹、イグサなど使った工作
- * 他、募集中です。

今年も「横浜カーフリーデー2005」

へ参加

事務局長 大森 勝

横浜カーフリーデーは、開港 150 周年を迎える 2009 年に本格的なカーフリーデーの実現を目指している。2 年目の今年は、市民が交通や環境、都市文化等について考えるきっかけの「場」を作ることがを目的として「横浜カーフリーデー実行委員会」主催で 40 団体の参加のもとに各種イベントを実施した。

神奈川県環境学習リーダー会は、大気環境部会が下記の横浜公園でのイベント及び、フォーラムに参加した。

1. 横浜公園、日本大通り「メインイベント」

9月23日〔金・祝〕11:00~16:00

- ・日本大通りの自動車交通を遮断し、歩行者、自

転車の専用区画とする。

- ・横浜公園で、「市中心部の排ガスを調べてみよう」とのテーマで大気環境部会が採集した空気中の NOx を分析。そのほか県下の状況をパネルで展示をおこなった。

- ・そのほか燃料電池車・電気自動車の展示、面白自転車展示と試乗、サイクリング横浜、親子ウォーキング他ミュージックキャラバン、アートギャラリー等が実施された。

2. フォーラム「話し合おう、今後の横浜カーフリーデー」

9月25日〔日〕11:00~16:00 横浜市開港記念会館

- ・基調講演「都市環境と交通問題」
- ・パネルディスカッション「今後の横浜カーフリーデー」の前に参加団体の活動展示、アピールが行われた。

第二回施設見学会のご案内

地域活動サポート部 香川興勝

平成17年度の施設見学会を次の通り行います。多数の方々の参加を期待しています。

【開催日時】平成17年11月7日(月)13時~15時

【見学施設】JFEアーバンリサイクル(株)

川崎市川崎区水江町6-1

TEL:044-270-5370

【集合場所】JR川崎駅改札(出口)

【集合時間】12時15分

【当日の行程】JR川崎駅東口(バス)

JFE扇島正門前(徒歩) JFE本社

事務所教育センター3階(川崎駅から約30分)

見学(13時~15時) JFE扇島正門前

JR川崎駅 懇親会(解散)

【参加申し込み】参加希望者は次の事項を記載のうえ、下記宛連絡をお願いします。

記載事項:氏名、現役の人は所属・役職、連絡先(電話番号)

申込み先:FAX:0465-36-9027(香川)

電子メール:yoshikatsu.kagawa@ybb.ne.jp

(注意:uとkの間はアンダーバーです)

申込み締切り日:平成17年10月25日 厳守願います。

【注意事項】写真、VTR等の撮影禁止。ハイヒール、

ス

スカートの着用禁止(安全上)

<見学施設の概要>

1. 事業内容 *家電リサイクル法により規定される使用済み家電4品目の再商品化事業、その他家電製品・OA機器・自販機等の再生処理による再資源化事業および回収された資源化物・廃棄物の運搬ならびに販売。

2. 事業の特徴

都市型製鉄所の特徴を生かした事業

*製鉄所の安価なユーティリティーや保全システムの有効利用が可能

高い再資源化率

*回収されたプラスチックを高炉原料化することで、再資源化率は80%

断熱フロンの回収

*オゾン層の破壊や温暖化要員のガスを高効率で回収し環境負荷を最小限化

水処理がいない環境保全型

*廃棄物処理の全行程で排水ゼロ。

3. 事業開始2001年4月1日、
資本金3億円

JFEエンジニアリング(株)30%

三洋電機 30%

三井物産 30%、

日本通運・山九 各5%

第二回地域懇談会 小田原で開催

地域活動サポート部 香川 興勝

会報 No.45 で本懇談会の開催目的や第一回の様子を紹介しました。その第二回が9月12日(月)小田原市尊徳記念館で行われました。小田原市や秦野市の会員4名の出席がありリーダー会役員も一緒になっているいろいろな観点からの活発な話し合いができました。

県西地区では水環境部会が中心となって、環境科学センター石綿専門研究員との協働で丹沢山系の総合調査の一環として外来水生生物分布調査活動を行っていることや、小田原メダカの保護活動の実態が報告され多くの質問・回答がありました。また、神

奈川県立地球博物館の学芸員からの情報も有効に利用され専門性の高い活動がされていることを全員が認識しました。

なお、水環境部会員以外の会員からの積極的な活動への参加を期待しているそうです。皆さん協力をお願いします。

もう一つの課題は、仕事を持っている若い会員が気軽に負担少なく参加出来る環境保護活動の機会が欲しいとの要望がありました。リーダー会として今後考慮していくべき事項だと思います。

今回の会合は11月14日(月)15時~17時、JR淵野辺駅近くの大野北公民館で行う予定です。皆様の参加をお待ちしています。

(会場確保は相模原市在住の荒谷様の尽力をいただきました、お礼申し上げます)

部会活動

エネルギー部会

部会長 安藤 紘史

活動報告(8月~9月)

8月度定例部会：8月14日(日)13:00~15:00

参加者：井上、児玉、中島、岩沢、小田、大森、
吉田、北村、藤木、下條、依田、安藤、
リーダー会役員会の報告：吉田

第1回「子ども環境体験教室」の反省と第2回の準備

エコタウンかながわ2005について

進捗状況説明とスケジュール確認

情報交換

- ・「全国エネルギーフォーラム」の参加報告
中島、安藤

総合的学習の時間の評価について

(マスコミから色々な評価が流れる中で、
地域をはじめ関係者の評価は高く、文部省
は縮小ではなく改善の方向で取組み中)

参考になる実験や教材紹介

- ・環境カウンセラーの応募要領と面接内要解説
下條、北村

子ども環境体験教室

「節電コンセントを作ろう」は応募者が多いので、
8月6日と20日の2回に分けて実施。

当部会と神奈川環境学習リーダー・エネルギー会

が共同で実施した。講師とスタッフを9名(20日は8名)とボランティア研修生(大学生)1名が指導にあたった。時間中はフル回転であったが、エネルギー体験、節電コンセント作り、エコカルタ等、好評であった。

9月度定例部会

平成17年9月4日(日)9:00~10:30

参加者：北村、藤木、下條、大森、小田、安藤、
吉田、井上、岩沢、児玉、中島、福田

リーダー会役員会の報告 吉田

実験器具購入について

CO2濃度測定のため検知管式気体測定器(ガステック社製)を購入する事に決定。

情報交換 安藤

- ・衆議院選挙に向けた各党のマニフェスト比較
環境税や公共事業への取り組みに差が目立つ

- ・温暖化の影響を受ける昆虫

「三浦半島に住む昆虫からのメッセージ」から

「エコタウンかながわ」の準備状況確認

活動予定(10月~12月)

1. 定例部会(開催場所：かながわ県民センター)

10月23日(日)13:00~15:00 708号室

11月13日(日)13:00~15:00 未定

12月11日(日)13:00~15:00 602号室

2. 行事

10月15日(土)及び10月16日(日)

「エコタウンかながわ2005」に参加

ケナフ部会

部会長 荒谷輝正

ケナフ部会員が携さわった 2005 年 8 月～9 月までの活動及び 10 月～11 月迄予定について報告します。

1. ケナフ部会定例会

7/13 7月ケナフ部会定例会開催

7月28日開催の環境科学センター主催の「子ども環境体験教室 写真立てを作ろう」の前準備を実施、図面と材料及び工具確認する。

8/16 8月ケナフ部会定例会開催

8月23日開催の環境科学センター主催の「子ども環境体験教室 ケナフを使った自分だけのハガキを作ろう」の前準備を実施

9/20日(予定)ケナフ部会9月定例会開催

ケナフ圃場の管理及びリーダ会役員会報告、打合せ

2. 対外的な活動

7/28 「子ども環境体験教室 写真立てを

作ろう」を担当。

進行 高尾行一 小川正敏、古澤正信、
荒谷輝正、その他ケナフ部員で担当。
予定どおりに完了しました。

8/23 「子ども環境体験教室 ケナフを使った自分だけのハガキを作ろう」を担当。

進行 荒谷輝正 小川正敏、鈴木顯、安部洋子、その他ケナフ部員で担当。
予定どおりに完了しました。

3 今後の予定

・9/17 相模原市北公民館で「ゆめ教室」で古紙を利用した「紙ぽっくりをつくってあそぼう」を開催

安部洋子 荒谷輝正が進行

・10/2 福祉のつどい(ふるさと野庭)でケナフの紙漉き実施

am10:00～pm2:00 60人～70人参加予定
担当 小川正敏



講座の全景



写真立て作り



環境科学センター玄関前でのケナフの茎を叩いている風景



ケナフの生長状態。これを切って紙にしました。

自然環境部会

部会長 近藤 作司

部会報告(8月～9月)

9月2日(金) 13:30～16:00

参加者: 安丸、高橋、岩田、近藤

7月20日の自然観察会(県立座間谷戸山公園)の反省

次回自然観察会計画(別掲参照)

部会の取組み検討(例; 外来種の問題、温暖化防止 森の役割、動物の食害 など)

K・リーダー会のイベントへの参加(直近のイベントには部会として参加は不可能)

次回自然観察会(案内)

自然観察会

開催予定日: 17年12月11日(日)

場所: 横浜自然観察の森。自然観察センター

住所: 横浜市栄区上郷町1562-1

内容: バードウォッチングをしながら森のいきものの観察

時間 9:00～12:00

交通: 京急金沢八景駅よりバス15分、横浜霊園前下車徒歩5分

集合: 自然観察センター前 8時45分

参加者大募集(ご連絡は近藤または安丸までお願いします)

詳細は会報47号でもお知らせします。

大気環境部会

部会長 猪股 満智子

新マップ完成！より大勢による集大成

6月2～3日の測定協力ありがとうございました。
測定開始以来初めてという雨中での取り付けでしたが、当会が採用の捕集管はビクとも影響を受けません。測定結果は過去の測定の中で一番きれいな？結果となりました。とは言っても実際は、排ガスは雨に取り込まれ洗い流されたという形、つまり地上に近い高度で（弱）酸性雨になったと同様と解釈してよいでしょう。

活動報告（7～9月）

6月30日（従来ソフト）、7月5日（MANDARAソフト）に延べ19名が挑戦し、なんとか使いこなせるまで到達できました。新ソフトMANDARAに関しては、その後、鎌田氏が根気強くKERCへ通い、アドバイスをいただきながらより見やすい6月度大気（NO₂）測定マップを完成させることができました。将来的には活用展開が多彩なマップとしてご披露できそうです。

- 7月21日（火）夏休み子ども体験教室
「ツバメ・アサガオで環境チェック」
講師；猪股、花上、立石、佐藤、柳川
- 8月27日（土）11～17時 鎌倉市御成小体育館
「かまくら環境フェスタ2005」に出展協力
内容；車排ガスしらべたい（隊）出動
担当；猪股、佐伯、鎌田、立石、村上
- 9月8日（木）13：30～17 NPOセンター大船
定例部会開催 出席；安藤、猪股、小川、

- 鎌田、草野、佐伯、佐藤、村上、安丸
6月度測定評価、マッピングの検討ほか
- 9月23日（祭・金）11～16時 横浜公園
「第2回横浜カーフリーデー」に出展参加
- ・9月21日～22日、22日～23日の24h大気測定比較し、分析、マッピング、結果発表
- ・25日（日）11～16時 横浜開港記念会館
活動展示と23日の結果発表、シンポ

活動予定（10～12月）

- 10月1日（土）13～16：20 藤沢市学習文化センター
地域交流（学習）会「大気汚染と温暖化」
講師；相原敬次 KERC 専門研究員
- 12月度大気測定にご参加ください！
- 11月22日（火）13：30～ KERC 実習室
部会、12月度大気測定捕集管準備
- 12月1日（木）18時～2日（金）18時の24h測定
- 12月10日（土）13時～ KERC 実習室
NO₂分析

測定参加していただける方は10月31日までに測定地点、本数等ご連絡願います（猪股）

自然系モニタリングにご参加ください

ツバメ（調査期間終了） 提出 大至急
ツバメの姿を見た（飛翔、留ったり）
巣にツバメを見た（巣の数を記す）
ジョロウグモ（調査期間9月～11月末日）
ジョロウグモを見つけた場所に × 数を特徴；馬蹄形、三層構造の網。 >
記入方法；地域地図コピーに記号、数を記入
提出先；12月10日
提出先；KERC 環境学習担当宛か猪股まで

水環境部会

部会長 齋藤 昭一

活動報告（9月まで）

今年の活動は西丹沢水系の河川のなかの外來種が「生息しているか、いないか」の調査が活動の目的である。はるか太古の時から多くのドラマを語りながら、築かれてきた神奈川の大地、そこに悠久なる流れをとどめる相模川を中心とした多くの河川が流れている。

現在その多くの河川に外來種と呼ばれるたく

さんの異色種が進出して、ある部分では生態系を乱すほどになっている。A コモチカワツボ、B コシダカヒメモノアラガイ、C ハブタエモノアラガイ、D サカマキガイ、E インドヒラマキガイ、F シシミ属、G フロリダマミズヨコエビ、H アメリカザリガニ等、である。

これまでに酒匂川、鮎沢川、河内川、本年に入って中津川、渋田川、鈴川、いずれも本流およびその支流、用水にいたるまで綿密な調査を部会員、一人一人の汗と努力の結晶で踏襲して、その成果を挙げてきた。そして9月11日の調査は、丹沢

の東側の河川、中津川、日向川、小鮎川に、私達は足を踏み入れた。A班、9時相模線海老名駅、(山側)に集合、石綿研究員、近藤、猪股、村上、齋藤。B班、小田急線秦野駅(南口)集合、杉崎、古谷、柳川の合計8名によって行われた。合流点は中津川馬渡橋である、この付近は異常なほどコモチカワツボが発生しているとのことであった。最初に柳川氏が発見した、続いて古谷氏、30センチほどの石の裏にピッシリと張り付いている、5mm前後の大きさである、しかも貝にしては動きが早い、その一つ、一つをピンセットで丁寧に捕集管に収める。

ここから4班に分かれて調査に入る、A班「日向川」近藤、猪股、B班「小鮎川」石綿、齋藤、C班「中津川a」古谷、村上、D班「中津川b」杉崎、柳川の編成であった。

A班、伊勢原の昔の青少年センターの下まで行くも成果なし。B班、清川村まで入り、下って飯山温泉下まで調べるも成果なし、しかも一つの石を返すたびに異常ともいえるほどのシマイシヒルのなんと多いことか、見た目以上に河川水の汚

れを感じる。C班、サカマキカイを発見。D班なし。

ちなみにコモチカワツボはきれいな河川水に生存する生物である、中津川も下流になるとサカマキガイが発見されて、これは汚い水にすむ生物であるところからその汚染度がうかがい知れるものである。

午後伊勢原市、フラワーセンターで合流して、遅い昼食を済ませて次回の打ち合わせをする。10月9日、いよいよ最後の砦、わが県最大の河川、相模川への挑戦である、相模湖の上流、道志川からの戦いになる、山中湖を源流として平塚まで全長116km、悠久の流れの中にどこまで外来種が進出しているのだろうか？ 私達の活動がその本源を確かめる、一部分の作業であったとしても何か意義深いものを感じるのである。年内にも環境科学センター石綿研究員の研鑽による神奈川県内の河川の外来種の分布図ができる予定であるとうかがうとなお更に、新たなる気力が燃えてくるのである。

廃棄物GO3部会

部会長 原圃 信夫

「活動報告」

・子ども環境体験教室：7月31日と8月28日の2教室を受け持ちました。

「ソーラークッカーを作ろう」ではソーラーでプリン、焼き芋を作っている間の1時間は、3Rのお勉強で、環境マークや、ペット、アルミ缶などの原料や再生品を実際に手に触れながら分別の大切さを実感してもらいました。

・かまくら環境フェスタ2005：8月27日 鎌倉市御成小学校で行われた青年会議所主催のイベントに3Rの説明と、環境パズルで応援しました。

・神奈川県地球温暖化防止イベント：9月10日 環境パズル及びソーラークッカーで協力思案(?)した。

「活動予定」(10、11月)

- ・10月のエコタウンかながわに協力します。
- ・11月定例会議

グリーン部会

部会長 杉山 陽絵

活動報告(8月~9月)

8月25日 ミーティング紙芝居リハーサル
かまくらフェスタ準備作業

8月27日 かまくら環境フェスタ出演
紙芝居、おつかいゲーム、グリーン購入カルタ実施

9月10日 地球温暖化アジア太平洋地域セミナー・サイドイベント
紙芝居実施

した。クイズを盛り込んだ参加型の紙芝居で、子どもたちにも好評でした。人前で紙芝居を演じるという初めての貴重な経験となりました。

活動予定(10月~11月)

紙芝居第2弾を作成します。グリーン購入について伝えたいことをお持ちの方、シナリオを書くのが好きな方、役者希望の方、絵を描くのが好きな方、ぜひ一緒に活動しませんか。

10月の活動日は未定ですので、参加希望の方は杉山までご連絡ください。

約2ヶ月をかけて作成した紙芝居「エコエコ商店街 夏休み編」を8月27日と9月10日に上演しま

容器包装リサイクル法の見直しの動き

廃棄物 G O 3 部会 原 園 信 夫

今年、ライフコーポレーションは「容り法は欠陥だらけだ」として再商品化委託料の支払いの保留を発表し、イオンなどがこれに続き、大混乱になった。7月末チェーンストア協会は、今年度は払うことを発表した。消費者団体はこれを大変なものと捕らえ、緊急対話集会を開催し、チェーンストア協会と消費者団体、学者を交え意見交換を行った。

チェーンストアの言い分は

1. 負担が偏りすぎている。その他プラの委託料の負担率は、小売業が 99.41%に対し、製造業は 0.59%、石油元売は負担ゼロである。
2. ただ乗り業者(委託料を払わない業者)を5年間行政は野放しにしてきている。今年やっとシマムラなど 11 社を告知した。農水関係のただ乗り業者も多い。
3. 2000 年度の委託料は 2,000 万円だったが 2005 年は 2 億になった。(売り上げは横ばい)
4. レジ袋の有料化を法律で決めて欲しい
5. 市町村の収集費用 3,000 億円は不透明。
6. サーマルリサイクルや、高炉還元とマテリアルリサイクル・ケミカルリサイクルではコストが違いすぎるはずなのに一律で試算されている。

というものであった。

消費者団体の言い分は、身近なスーパーに裏切られた、社会的責任を標榜しているイオンなどが法を無視する行動はいかなることがあっても許される

ものではない。というものであった。

経済産業省の産業構造審議会、環境省の中央環境審議会で緊急対話集会に参加した業者、消費者は審議している人たちなのに、お互いの思いが答申に入っていないジレンマが出ているように感じる。

日経エコロジー10月号で「容器包装の生きる道」という特集を組んでいる。

容り法改訂のポイントは、上記でも述べてきたが、

1. 市町村が収集費用としている 3,000 億円の事業者への負担付け替え
2. ペットボトル以外のその他プラスチックにサーマルリサイクルを認める
3. レジ袋を法律で有料化する

である。容り法の考えの中には「トレーなどを使わない、容器を軽量化する等の努力は小売側、飲料メーカーにある」という考え方により委託料が計算される。100kg の容器包装を利用した場合の委託料は紙容器で 125 円、PET で 3,100 円、その他プラで 8,000 円とも言われている。生産者責任は価格に入っていく。そこで消費者は購入を選択する必要がある。委託料を払わないただ乗り業者は、委託料をねこばばしているともいえる。

また、レジ袋はどのように努力してもマイバック運動は 30% が限度といわれている。チェーンストア協会でのレジ袋辞退率は 13% である。レジ袋有料化の動きは加速されるかもしれない。

3 R 推進月間について

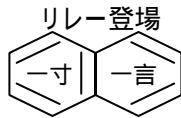
グリーン部会長 杉山陽絵

10 月は、3 R 推進月間。経産省、内閣府、財務省、文科省、厚労省、農水省、国交省、環境省の 8 府省が実施するほか、全国各地でさまざまな取り組みが展開されます。皆様ご存知のように 3 R とは、Reduce Reuse Recycle 頭文字をとったもの。もともとは「リサイクル推進月間」という名称でしたが、平

成 13 年に施行された「循環型社会形成推進基本法」、「資源有効利用促進法」の中にリサイクルにリデュース(廃棄物削減)リユース(再利用)も加えた、「3 R」の取り組みが循環型社会形成に重要であるとの考えが盛り込まれたことを受けて、平成 14 年度に「3 R 推進月間」と改称されました。

Reduceを進めるためには、まず「ごみになるものは買わない」ことが重要です。そこで、3R推進月間に合わせて39都道府県と内閣府が連携して「環境にやさしい買い物キャンペーン」が実施されます。神奈川県でも、県内のスーパーでの啓発事業が予定されています。

- 創作環境落語 - 三匹の猿と蛙



鎌倉市 下條 泰生

ええ 一席伺わせて頂きます。

ご存知熊さんと八つつあん、浮かぬ顔してご隠居のところに行ってきました。“ご隠居てえへんだ” “なんだね、朝っぱらから二人して騒々しい” “日本中三匹の種類の猿が増えているということではねえか” “イヤ、そのことか、ワシも心配しているところだ。そもそもその三匹はもとはといえば、日光東照宮の軒下に住んでいた有名な三匹「見ザル」「聞かザル」「言わザル」の子孫で、この百五拾年進化しヒト科「気づかザル」になったそうさ” “へえ” “それがだナ、ヒトの姿をしているから気づかないが、それ電車の中にもいる。お年寄りや体の不自由な人がいても気づかザルふり、いやまだある。地球温暖化にも知らんブリの「気づかザル」している。アメリカではそれを「クライメート・モンキー」気候猿といっているがネ” “だんだん面倒なことになってきたナ、八つつあんサロウか” “一寸お待ちヨ、お前さん達も遠い所、遠い将来の話と思ってもらっては困る。いま、そういった災害にあった人のイタミを気づかザ

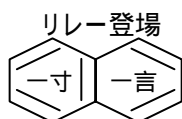
日常生活に欠かせない買い物。そこで私たちが何を選ぶかが、3Rの推進のみならず地球環境問題の解決のための原動力となります。その商品を選び購入することが、社会のどうということにつながっているのかを、自分の知識と想像力を働かせて考えてみることは、とても大切なことだと思います。

皆さんもこの機会に自分の買い物について、見直してみてもいいのではないでしょうか。

ルでは困る” “でもご隠居、気づかザルの繁殖のものはなんなんデ?” “オオよく聞いてくれた。どうも気づかザルは異常なことを正常なこととして平静を保つ心の歪みにあるのジャ。宮城沖地震の津波、和歌山の津波でも警告があっても実際に逃げたのは10%もない。多くの死者を出した韓国の地下鉄火災でも車中に煙が充満しても新聞を読んだり、ボンヤリしている人がビデオに写っていたが、異常気象が続くと異常を正常と思い込むのが怖い” “ではどうすればイイんで” “そうじゃナ、いま原油が高くなっているじゃろうが、高くなれば油の浪費を控えるという価格調整の仕組みが働く。現に、今朝の新聞でも、「車で買い物は止める」 「遠出はバス、電車を利用する」というアンケートの結果があったナ、それジャヨ、習慣になればよいが。まだある、国が考えている環境税な、とくにCO2排出の伸びが高い家庭や運輸にかけることで、気づかザルにショックを与え孫達がうけるイタミをいま分かち合うことだヨ。それにお前さん達が一匹の蛙をかうことだ。” “なんで蛙を” “生活をカエル、社会をカエルことジャ。オオ、そうさ気づきについてお釈迦様の有名な「火宅のたとえ」を話そうカナ” “熊さん、時間だ、蛙が鳴くからケエロ!”

お後がよろしいようで・・・。(お後は小田原市の米山さんに御願います。)

たくさんの方々と



小田 勇(相模原市)

今年の4月末、相模原市の自然環境観察員としてタンポポの調査をしていた時のことである。ウォーキング中の(老)夫婦に声をかけられた。

「なにやってるんですかー? タンポポ?」
「種類調べです。外来種か在来種か? ね。」
「しってる。花の下がギザギザしてるやつ。ここらはみんな西洋種でしょう。日本のはもう無いんだって?」
「外来種が多いけど在来種もありますよ、ほらギザギザが無いでしょう。これが日本タンポポ。」
「これ! 俺の畑のそばにいっぱいあるよ。」
「一つ覚えて得した感じ! じゃあね。」

「暑いですから気をつけて！」

二人とも初対面の人だったが、かんかん照りの暑い中でタンポポの話は30分以上も続いた。タンポポが縁の見ず知らずの人との出会いだっただ。

地元の公民館には文化部の行事の一つ「環境講座」を一緒に担当する8名の人がいる。もう4年もの付き合いの人3年の人も今年からの人も。

今年も「環境講座」の実施が決まった後、去年は「下水処理」、一昨年は「廃棄物」、その前は？今年は何にしようか？など過去の実績も加味しながらテーマを決める事から始めた。その後、定員は？事前講義は？体験場所はどこ？実施日は？雨が降ったら？等々やることは結構多い。会議の席では遠慮の無い意見が飛び交うが進行は割りに速い。結果、「森の働きと水」を考えて貰う事にして、「森と過ごす時

間」と題し7月初めに約30名の参加者を21世紀の森へ案内することができた。

「環境講座」だけでなく「歴史講座」「趣味の講座」「外国文化講座」等と一緒に活動する文化部員20名とは、公民館活動が縁でできた地域での貴重な付き合いになっている。

相模原市自然環境観察員から広がった環境の諸活動、自治会の縁から始まった公民館活動、趣味のボランティア、スポーツ活動など、職が縁の付き合いが縮小し今新しい活動が少しずつ広がってきている。これらの活動を大切にし相手の方に迷惑を掛けないように心して、沢山の方々のお付き合いを大事にしていきたいと思う。

今回は小田原市の香川興勝さんをお願いしました。

掲示板

会計からのお願い

会計担当 鎌田英光

平成17年度会費の納入につきまして、去る5月お願いいたしました但未だ納入されていない方がおられます。

つきましては、年会費は、当会活動に欠くことのできない運営原資となっておりますので、是非早めにご納入下さるよう重ねてお願いいたします。

当会の活動は、会員各位の努力により幅広く、活発に展開されており、各地での評価も年々高まっております。

これまで当会活動に参加されていない会員の方も、どうぞ奮ってご参加頂きたいと思っております。

振込先：郵便局振替番号：00230-4-30769

加入者名：神奈川県環境学習リーダー会

編集後記

広報部がピンチです!! 1998年6月に「連絡会ニュース No.1」が発行されて以来、今回の「会報 No.46」まで広報担当の諸先輩方や会員の皆様方のご協力によって、今日の充実した内容になってきたことを感謝申し上げます。

ところが、この会報を担当する広報部に、今大きなピンチが訪れています。それは、一言でいえば、広報部の新陳代謝が行われていないことです。現在、部員は5名ですが、そのうち3名が5

年以上、1名が3年と在籍年数の長い部員が殆どです。会報の発行に際しては、部員にはそれなりの負担がかかります。特に、パソコン編集に5年以上も携わってきたHさんは以前から交代を希望されてきましたが、ようやく今年になってKさんが後を引き継ぐことになりました。しかし、Kさんもその他の業務が多忙でたいへん苦戦している状況です。また、部員の中には退部を希望している人が複数いますが、なんとか慰留して留まってもらっている状態です。

今までに、度々広報部員の募集をしてきましたが、殆ど応募がありません。このままでは、会報の発行を大幅に減らすか、最悪の場合は休刊という事態も起こりかねません。

このような事態は避けなければなりません、そのためには会員の皆様のご協力が必要です。この広報部の厳しい現状をお察しいただいて、1名でも2名でも入部して下さるようお願いいたします。特に、パソコン編集に関心のある方（経験の有無は問いません）を歓迎します（連絡先：黒澤広報部長）。

広報部 木本光昶

発行人：神奈川県環境学習リーダー会

代表 安丸 元一

編集人：広報部長 黒澤 宏

TEL/FAX 0463-88-5193

発行日：2005年9月30日